

## 四天王寺大学及び同短期大学部におけるレクリエーション・インストラクター資格取得状況とその課題 ～資格取得卒業生追跡アンケートをもとに～

○奥野 孝昭（四天王寺大学）      △大西 敏浩（四天王寺大学短期大学部）

キーワード：レクリエーション・インストラクター、課程認定校、コミュニケーション

1983年から、大学・短大や専修学校等の教育機関で、日本レクリエーション協会が定める「レクリエーション指導者養成課程認定校」制度が発足し、今年で25年を迎えた。

本学でも、レクリエーション・インストラクター資格を2003年度より養成しており、丸5年を経過した。その間に100名を超える資格取得者を輩出したのだが、資格を取得した彼らが職場や地域でこの資格をどのように活用しているか、またそのレクリエーション実践状況はどうなのか、資格養成担当教員として把握しておくべきだと考えた。

調査の結果、本学卒業生においても他学と同じく更新をせずに資格登録を手放す卒業生が多数いたことがわかった。ただ推測とは違い、意外にもそのなかには資格にこだわるよりも、自分たちの実践に自信を持ち、積極的にレクリエーション支援を行っている者が多かったことだ。推測とは違う結果に驚きつつも、資格を取得する意味と、その資格養成の課題について卒業生の追跡アンケートから考察してみた。

## 学校運動部に対する地域スポーツクラブの活動支援

愛知県三河地域におけるオリエンテーリングプログラムの事例より

○松澤俊行（愛知教育大学大学院）

△杉浦恭（愛知教育大学）

少子化、指導者不足等の要因により、学校運動部活動の衰退が著しい。このような状況下では、部活動の場を学校内のみにとどめず、地域のスポーツクラブと連携していくことが、問題の解決につながると考えられる。

北欧では、地域オリエンテーリングクラブが、教育的配慮の行き届いた若年向けプログラムを学校に提供し、運営に協力している事例が見られる。プログラムを通じて、児童生徒が新しいスポーツに触れる機会を得られる他、クラブ側の新入会員獲得にも結び付く。

今回、こうしたプログラムを、北欧との環境の違いを考慮して修正した上で、日本の学校運動部活動に導入することを試みた。対象地域は、オリエンテーリングのフィールドに恵まれた、愛知県三河地域とした。プログラム実施の過程で浮かび上がった問題点や、得られた成果について報告する。